



秋の大運動会 子どもはいつも一生懸命



益城町

議会だより

清水

せ い

す い

平成27年(2015)9月定例議会 No.60



秋の収穫はじまる

むぞらしか お室さん

P18

議案の賛否表

P17

組合議会からの報告

P16

常任委員会レポート

P14-P15

一般質問10名が町政を問う

P4-P13

平成26年度一般会計
決算などを審議

P2-P3



吉村 建文議員

益城町のいじめの実態について

問題の内容を確かめ解決を図る

益城町のいじめの実態は

吉村 7月の岩手県での中学生自殺について、いじめが社会的問題になってきたが、最近の益城町のいじめの実態について伺う。

今年度の、いじめの問題行動等についての報告は上がっていない

教育長 熊本県では、毎年1月に公立小中学校こころのアプローチが実施されている。平成26年度の本町の結果をみると、今の学生でいじめられたことがあるかの問いに対して「ある」と答えた児童生徒の数が294名あり、言いがかり、冷やかしの仲間はずれ、無視等のいじめの内容が挙げられている。

今も続いているかという問いに41名の児童生徒が「今もある」と答えている。それらの結果を受けていじめがあったと答えた児童生徒の一人一人に聞き取りを行い、「今もある」という児童生徒に対しては、問題の内容について一つ一つ確かめ解決を図っている。その結果、今年度のいじめ



みんな仲よく登校

めの問題行動等についての報告は上がっていない。

吉村 学校のいじめやトラブルなどの相談に乗るスマートフォン用無料アプリがあるということ、益城町でもこうした体制がとれないか、検討してみてもどうか。

益城町ではスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーの配置等もなされている

策定作業を進めている。

情報公開制度の対応は

吉村 益城町は情報公開制度が、県内でも低い位置を示しているが、町の対応はどうなっているのか。

県内でも低い位置にあるが公文書は基本的には、すべてオープンという考えである

町長 県内でも低い位置にあるが、公文書は基本的にはすべてオープンという考えのもと、求められた情報については十分な情報公開は行われており、今後情報公開制度の内容や開示の請求方法等についても、町ホームページや広報誌等を通して町民の皆様にはわかりやすく周知していきたいと考えている。

地方版
総合戦略の状況は

吉村 現在、益城町においても総合戦略を、12月末までに作成していると思うが、現在の状況をうかがう。

本年12月をめどに現在策定作業をすすめている

町長 本町の地方版総合戦略の策定については、学識経験者、町議会、産業・医療団体、官公庁、教育機関、金融機関、報道機関及び公募委員等16名からなる「益城町・ひと・しごと創生総合戦略審議会」を中心に本年12月をめどに現在



宮崎 金次議員

現行の地籍調査をスピードアップ出来ないのか

各種の制約はあるが、実施要領を検討しスピードアップしたい

地籍調査は

10年以内を目標に

宮崎 県下45市町村の中で、地籍調査が終わっていないのは、我が町を含め17市町村で、このままでは、20〜30年かかると思われる。町の発展のために、実施要領を再検討して10年以内に終了させるべきではないか。

いろいろの制約を検討して、早期に終わらせたい

町長 本事業は国が半分、残りの半分を県と町が負担、10年前から行っているが、現在32パーセントの進捗率である。町としても、境界の確定は土地取引の円滑化や課税の適正化のためにも大切な事業と考えており、諸制約を検討し地籍調査のスピードアップを図りたい。



山林での地籍調査

イノシシやシカ等の
対策を真剣に考える
時期では

宮崎 町内の至る所でイノシシやシカによる被害が発生しているようであるが、町としても真剣に鳥獣対策を行う必要があるのではないかと。特に駆除を効果的に行うためには、駆除や捕獲をしておられる人達を確実に育成確保しておくことが大切で、狩猟講習費用、駆除時の日当や傷害保険の補

助等について検討すべきではないか。

鳥獣被害を少なくするために、駆除員に対する支援を検討する

町長 鳥獣被害を少なくするために、駆除隊員の力によるところが大きいと思うので、駆除隊員の負担軽減のため狩猟免許の取得・更新費用の助成、講習費用、一斉駆除時の日当や傷害保険の補助についても、今後検討したい。

町有地の等価交換では
町民の理解が必要



農作物に被害を及ぼすイノシシ

宮崎 町の施策として、やむを得ず町有地を等価交換の対象にする場合でも、町民を優先する考え方から、特に地元町民の理解を得て、町有地の等価交換を提案すべきではないか。

町民への説明は、町有地の有用性で判断

町長 交換する土地の有用性つまり交換する町有地の利用度を見て、町民への説明を判断する。また説明の時期及び必要性は、その交換する財産の種類、金額、面積を踏まえて対応する事となる。



富田 徳弘議員

益城町畜産団地委任契約終了後の取り組みは

委任契約の再委任は行わず、環境問題の課題について説明を行っていききたい

養豚農家への対応は

富田 赤井地区の益城町畜産団地は、昭和56年に設立され、当初は7戸の養豚農家の入居で開始された。翌年に4戸の方がやめられ、残りの入居者3戸となり、現在は養豚農家1戸だけの入居となっている。設立当時の委任契約期間は、施設の耐用年数と記載されており、平成28年6月が終了期限となっているが、畜産団地委任契約終了後をどう考えているか。

本年6月貸付期間終了 通知書を手渡している

町長 益城町畜産団地は、国の同和对策農林業団地特別整備事業により、昭和56年6月25日から平成28年6月24日までの委任契約を締結している。益城町畜産団地設置条例第3条に、「畜産団地は、益城町が管理する」とあり、町単独で施設の修繕を行っている。また、益城町畜産団地設置条例施行規則第3条に「施設の貸付期間は、施設の耐用年数とする」となっている。これにより委任期間は、平



畜産団地全景

成28年6月24日までとなり、益城町としては、貸付期間終了1年前というところで、本年6月現地にて相手の方に説明の上、貸付期間終了通知書の手渡しを行っている。今後については、益城町として委任契約の再委任は、益城町畜産団地設置条例施行規則第3条により行わないこととし、相手の方および周辺住民の方と環境問題などの課題について十分な説明を行っていきたくと考えている。



老朽化した豚舎



中川 公則議員

新球場の誘致を推進すべきではないか

町民へのメリット・デメリットを勘案し、検討する

藤崎台球場の 移転問題について

中川 大西市長は熊本市議会で、移転問題についても、議論をスタートされる考えを明らかにされている。本町は益城インター・熊本空港・九州中央自動車道等と優れた立地条件を満たしており、誘致に向けた活動を積極的に推進すべきではないか。既に他の町村も誘致に向け展開されている。実現出来れば、町の活性化、発展は図り知れないものと思うがいかがか。

立地には困難を極める ことが想定される

町長 本町には都市計画法や、農地法など土地利用上の規制があり、立地には困難を極めることが想定される。あわせて、道路整備など公共施設の整備が発生する可能性もあり、野球場を誘致するということは、町民生活に影響を与えることから、本町や町民にとってのメリット、デメリットを勘案しながら、今後検討していく必要がある。

益城町中央公民館に 調理室設置を



益城町中央公民館

調理室の設置は困難な 状況

町長 中央公民館の再度の調理室は困難な状況にあり、保健センターの利用については利用しやすい調理室になるよう研究していききたい。

熊本高森線にバスレーン 設置はできないか

中川 熊本高森線の渋滞は深刻な問題であり、また、交差点問題も解決に至っていない。

県道沿いの空き地を県と協議しながら一般車と、バスが離合出来るレーンを部分的に設けて、渋滞緩和に繋るようにはどうか。

県に要望していく

町長 住民の生活利便性に係る道路整備として、九州産交と協議し、県に要望して行く考えである。



県道熊本高森線



坂本 貢議員

空き家対策特別措置法が施行され、町も条例の制定が必要では

特別措置法の規定に従い空き家対策に取り組んでいく

過疎化などの進行に伴い、空き家問題が深刻化している

坂本 益城町でも少子高齢化、過疎化の進行などに伴い空き家問題が深刻化している。

平成27年2月26日に空き家対策特別措置法が施行され、同年5月26日から完全実施されている。益城町としても空き家の老朽化家屋が増えないように、また、利活用するために、早急に実態調査を行い条例を作る必要があるのではないかと。

空き家対策については関連各課を連携し、必要に応じて協議会を設置し対応すると言っていたがその後どうなっているのか。

空き家等対策協議会を設置する方向で、計画の策定を行うよう検討している

町長 空き家対策条例については、今回施行された空き家対策の推進に関する特別措置法に基づき、市町村での条例制定は特に必要ないとのことである。

今後、特別措置法に規定し



空き家対策が望まれる

そつめん滝遊泳でマナーの改善を

坂本 そつめん滝においては、春先の約4か月間、農業用水確保のため、せき止められ、大きなプール状となり、遊泳に来る若者たちが増える状況にある。

泳ぐだけならいいのだが、非常にマナーが悪く、近隣の住宅に侵入しスプレー缶を盗み小屋の外壁に落書きをしたり、生活用水のパイプを引き抜いたり、さらには町道にたむろして地域住民の通行を妨げるなど大変な迷惑を与えている。住民の生活環境を守るべく、マナー違反の看板をもう少し増やしたり、防犯カメラの設置をお願いしたい。

町内の全小中学校で遊泳禁止の指導をしている

町長 そつめん滝については町の生徒指導連絡協議会において遊泳禁止の指導を行っている。町内の児童生徒に徹底するため、本年8月に「遊泳禁止」の看板を設置したところである。



遊泳禁止の看板は立ったが…

防犯カメラの設置は犯罪行為の防止には一定の効果があると思われるが、マナーの向上につながるかは疑問が残るところであり、プライバシーなどの問題もあり難しいところがあるのではと考えている。看板については、本年、ごみの不法投棄禁止看板を6枚交付している。



下田利久雄議員

集落内開発制度促進について

集落内開発制度を活用し、地域の活性化を図る

集落内開発補助を手厚くしては

下田 平成20年4月より実施されている集落内開発制度で、飯野、福田地区については、地区計画のもと4〜5ヶ所が宅地造成された。しかし、津森地区の開発は下水道工事の遅れや需要の関係から、開発業者が二の足を踏んでいるのが実情である。補助を手厚くするなど、事業者が進むような対策を講じて欲しい。

良好な居住環境と雇用の拡大に向けて

町長 集落内開発制度は、都市計画法第34条第11条に基づき、熊本県が条例を制定して平成20年度から施行され、開発区域の指定がなされている。この制度は開発許可制度のため申請が必要となり、指定区域内であっても、農地であれば農地転用の許可を受けることや、他法令による行為の制限を受けられない土地であることが要件となり、事前の協議、検討が大変重要である。現在、合志市・菊陽町・嘉島町・益城町で編成している市街化調



福田校区定住促進住宅

整区域活性化連絡協議会でも、運用の見直し要望などを熊本県と行っているところである。地区計画開発制度についても枠組みの拡大を県と行っており、住居ニーズの高まりや地域の活性化に適正に対応するとともに、企業誘致による雇用の安定や産業振興を図っていくことが、均衡ある町発展に必要な不可欠だと思っている。

今後も民間活力による地区計画および集落内開発制度を積極的に活用し、良好な居住環境の形成と雇用機会の拡大によって、市街化調整区域の活性化を図っていきたく思っている。

定住促進補助金制度の推進を

下田 定住促進事業については津森・飯野・福田の3校区において、平成23年4月より定住促進補助金制度が実施されているが、津森地区の定住促進が進んでいないように思う。また、町としても、ウーマン・ドリーム事業・四賢婦人記念館の改修が計画されているように、定住促進の一環となればと期待している。他に定住促進の進むような対策があれば伺いたい。

子どもの増加と補助期間の延長

町長 平成23年度より3校区の子育て世帯の住宅補助を行っている。8月末現在で申請117件、子どもの数は201人の増加で、津森校区は、田原団地の補助を合わせて28名増加している。補助の期間を当初の5年間で3年延長したが、平成31年度以降の延長について、平成29年度末頃に協議検討し、決定したいと考えている。



田原団地



坂田みはる議員

児童、生徒の安心安全への対策に 自転車保険加入を

中学校は自転車通学を認めているため自転車保険 加入を推奨している

加入状況の調査 アンケートの必要性は

坂田 平成27年6月、自転車
道路交通法が改正された。こ
の背景には、自転車関連の交
通事故数と年間の死亡者数に
かかっているとも聞いてい
る。

警察庁による平成26年度発
生の自転車関連の交通事故は、
10万9269件、全交通事故
数の19パーセントを占め、ま
た年間の死亡者数が542人、
そのうち65歳以上の高齢者が
63.9パーセントだったとい
う。

自転車を通学する子どもが
加害者になった場合でも、賠
償金が高額になる事例が相次
ぎ、その賠償責任を親が負う
ことになる。

通学や遊びに出かける時、
日常の移動手段に自転車を使
う子どもがいる家庭に対し、
自転車保険の加入状況や、加
入の必要性についてはどのよ
うに考えるか伺う。



自転車保険加入の必要性は

**加入状況の調査は行って
いないが、小学校でも自転車
の安全な乗り方の指導とあ
わせ自転車保険加入の推奨
をしていきたい**

教育長 自転車関連の事故は
自転車対自動車の事故が圧倒
的多数だが、自転車対歩行者
の事故も増加している。この
場合は自転車加害者になる
ことが多い。

このような状況の中で、中
学校は自転車通学を認めてい
ることから、自転車保険に加
入するように推奨している。
自転車通学の生徒に対して許
可証を出すときに申込書を配
付し加入するようにつけ加え
ている。その配付した保険に

加入する生徒もいるが、保護
者が加入する損害保険に同時
加入するなど様々で、その
後の加入状況の調査は行って
いない。

小学校では自転車使用は保
護者の責任としているので加
入の指導は行っていない。よ
ってアンケートの実施もしてい
ない。しかし、今後はさらに
自転車の安全な乗り方の指導
を徹底するとともに自転車保
険の加入も推奨していきたい。

全国大会出場 の助成対象 見直しはあるか

坂田 益城中学校吹奏楽部総
勢34名が、第1回全日本ブラ
スシンフォニーコンクール本
選大会に九州代表として出場
するに当たり、全国大会出場
ではあるが県大会や九州大会
を経たものではないことから
助成の対象とならなかった。
出場の経緯が基準と聞いてい
るが、条件に見合わない場合
でも一気に全国大会等への出
場をされる中学生、小学生だ
けでも助成の対象に加えるこ
とを検討してはどうか。



益城中学校吹奏楽部 全国大会最優秀賞 おめでとう

**対象を含め限度額等につ
いても近隣市町村を
参考にしながら検討し
ていきたい**

教育長 今大会は、東京のテ
レビス社BSジャパン主催の
第1回目で、全国に募集をか
けている。関東や大阪、名古
屋では予選が行われたが、九
州での予選はなく、益城中
学が入ったことは名誉なこと
と考えることもできるが、第
1回目であること、中学校
で30万円しか助成金の予算がな
く厳しいということで見送っ
た。今後助成の対象を含め、
限度額等についても、近隣お
よび類似の市町村を参考にし
ながら検討していきたい。



野田 祐士議員

木山交差点の空き地問題は建物補償費等 900万円の支出に不明瞭な点が多い

あくまでも予算であり、今後精査をし、等価交換に ついては住民や関係者の理解を得る努力をする

木山交差点の計画・用 地交渉・施工は誰が行 うべきか

野田 木山交差点は県道と県
道の交差である。交差点の計
画や用地交渉または工事につ
いては、熊本県が行うべきと
考えているが、いかがか。

町長 熊本県と益城町それぞ
れが管理している部分を担当
することになると思う。

野田 事業主体は熊本県であ
るが、益城町は熊本県と現在
どのような協議を行っている
のか。

町長 上益城地域振興局に、
毎年要望を行なっている。具
体的な協議はなく、整備の在
り方について検討を行って
いる段階である。

野田 「今回の用地補償を逃
せば、交差点改良は将来に渡
り不可能になる」と発言され
たが、その根拠は何か。

町長 当初予定されていた店
舗が立地すれば、20年以上交
差点改良が事実上困難となる
ため、将来に渡り不可能にな

ると危惧したものである。

野田 町長は「建物補償費9
00万円の議案」を二度に渡
り議会に提出した。議会は審
査の結果、不明な点が多く、
必要な資料の提出もないこ
とから「否決」した。
この議会の議決についてど
う考えているか。

町長 現時点では非常に残念
である。

野田 交差点改良そのものに
反対を唱えている町議会議員
はいるか。

町長 町議会議員全員の悲願
である。改良そのものにつ
いては、全員賛成していると考
えている。

野田 交差点改良そのものは
全ての議員の悲願である。用
地交渉に関するやり方が間違っ
ていたのではないか。

町長 コンビニ店舗の建設の
話が進んでいた時点で、いろ
いろ交渉した結果である。

野田 文化会館第一駐車場(1
958㎡)と交差点横の民有

地(1000㎡)を代替え地
として交換するのはおかし
いのではないか。

町長 コンビニ店舗の代替え
地とするための手法ではなく、
誤解のないようお願いしたい。

野田 文化会館第二駐車場は
必要に依り、当時約1億20
00万円で益城町が購入した
ものである。なぜ現在も利用
している駐車場を代替え地に
しなければならないのか。

町長 どちらも非常に大切な
土地である。ただ町民にとっ
てより必要な土地は交差点隣
接の民有地である、と私は考
えている。

野田 交差点改良計画のため
の用地交渉と言うよりは、コ
ンビニ店舗の代替え地として
の交渉になってしまっている
のではないか。

町長 町民の中には「どぎや
んこつしてもやれ」と言う話
もある。町がこの用地を確保
しなければ、20年間交差点改
良ができないという思いの表
れであり、悲願達成をするこ
とで責任を果たしていきたい。



文化会館第2駐車場



松本 昭一議員

藤崎台県営野球場にかわる新球場を誘致する考えはないか

誘致については積極的に対応していきたい

硬式野球場を誘致する考えはないか

松本 建設から55年経過した藤崎台球場は、今でも、野球を愛する者、高校球児にとっては神聖な球場だと思っ。しかし、サブグラウンドや屋内練習場はおろか、試合前のウォーミングアップをする場所もなく、駐車場のスペースも狭く、不満の声も多いため、新球場の建設を望む声が上がっている。この新球場を益城町に誘致する考えはないか。

益城インター、熊本空港が位置する益城町は、新球場の候補地として適地であると考える

町長 藤崎台球場は昭和35年熊本国体の時に完成し、以来、高校野球をはじめアマチュア野球からプロ野球に至るまで、数々の歴史が繰り広げられてきた。益城町に本格的な野球場ができれば、子どもたちに夢を与え、地元にも大きな経済効果をもたらすことから、本町は新球場の候補地としても適地であると思う。誘致に



県営藤崎台野球場

ついては、積極的に対応していきたい。

松本 6月4日に開催された新球場建設連絡会に町長も出席されたと聞いているが、参加団体や連絡会の趣旨など教えていただきたい。誘致については、他の自治体に負けぬよう新球場誘致プロジェクトチームを作って、町長に先頭に立っていただきたい。

町長 熊本の8団体からなる野球関係者の団体、国会議員、県会議員、市町村長など450名が参加し開催された。連絡会の構想では、3万人規模のメイン球場、1万人規模のサブ球場、屋内の多目的運動場を備えた施設を求めている。

これはプロ野球のキャンプ誘致も考えているようである。また、大規模災害時の緊急避難場所にも位置づけられている。新球場建設プロジェクトチーム、いろいろな観点から検討していきたい。

松本 町としてこの建設に係る防災対策についてどの程度把握されているか、この施設に対する税金があると思っが、その額をおしえてほしい。竣工し、稼働となった際に地元雇用はあるのか。

固定資産税として、7000万円程度が見込まれる

町長 町としては、林地開発に伴う災害発生がおこらないような設備の配置、導入を行うつもり、地元と十分協議をするよう関係各課と協議し、平成26年8月に熊本県の林地開発の許可がされている。土地および償却資産を合わせた固定資産税として、7000万円程度の税金が見込まれている。地元雇用は見込ま



益城ソーラー発電所予定地 (津森地区)

れていないが、除草等の維持管理については、地元業者を優先的に依頼するとの話を伺っている。

松本 施設の建設に関して、防災対策については、十分な調査と審査をしていただき、下陳、上陳、堂園地区に決して災害が起きないように、細心の注意、配慮をお願いする。

町長 津森地区に決して災害が起きないような計画を熊本県と協力してやっていきたい。



榮 正敏議員

町の要である木山中心部の早急なる開発は

木山交差点改良を含め政治生命をかけてやりぬく覚悟である

県道高森線・木山商店街の歩道建設工事計画の有無について

榮 現在、惣領、馬水、安永までは県道に歩道が設置されているが、木山下町から上町までがいまだ整備されておらず、朝晩のラッシュ時には通学する子ども達やお年寄りのすく横を大型車が通って行き非常に危険極まりない。雨の通学時に小学生が傘を差してトラックの車体に傘を引掛けられたのを見て寒気がしたと商店街の人は言う。近隣町村の役場周辺はきちんとして整備されているが、益城町はいまだに整備されていない。町民の命を守ることが一番重要な施策として考えられる。このような状況を踏まえて町としての今後の対策について伺いたい。

県に対して引き続き強く要望していく

町長 現在の熊本高森線の下町から上町に於いては車道が何とか二車線あるだけで、歩道がない危険な状態である。これまでも県に対して要望を



狭っ、あぶない

してきたが、いまだに事業着手に至っていない。ただ現在暫定的に側道部分を歩行しやすいように整備し着色しているがこれで安全が確保できるとは思っていない。今後木山交差点を含め歩道整備とともに、道路管理者の熊本県に対して、引き続き、積極的に要望を行っていく。

いのちを守る歩道建設町を守る交差点建設

榮 去年の議事録を見ると同僚議員が「木山交差点用地を買収、先行取得して、早く作

れ」と質問している。5年前に前町長も「県に対する陳情は強く推しているところです。」とあるが、言っている事とやっていることが一致しない。こんなことでは交差点どころか町の振興と発展は望めない。早くこの問題は解決しなければならなかったのだが、もうあとはない。執行部として、どう対処するのか伺いたい。

木山交差点の改良は益城の発展に絶対必要である

町長 この木山交差点の渋滞の解消は、長年町民の皆さんの願いである。また、子どもたちの安心・安全を守るためまた益城の発展のために絶対必要だと考えている。私の政治生命をかけてやり抜く覚悟である。

榮 就学前の子どもや親に対する支援は従来のままでいいのか。また、小中学校児童、高校生を持つ家庭に対しての支援対策は、子どもは地域の宝、町の宝である。若者夫婦の益城定着、あるいは少子化対策につながる新たな施策はあるのか伺いたい。



あそびー (福田地区定住促進住宅)

町長 平成24年8月に子ども・子育て3法が成立し、本町においても今年3月から平成31年度までの5年間を「益城町子ども・子育て支援事業計画」を策定し、様々な角度から支援していきたい。また若い世代が安心して結婚・出産・子育てができる環境を作ること、本町の総合戦略策定の、重要検討事項として挙げている。

9月議会

常任委員会レポート



給食センターで現状の説明



飯野小学校空調設備進捗状況調査

常任委員会レポート

9月議会

総務

学校給食センターの新たな課題

総務常任委員会では、付託された3議案について執行部から説明を受け、慎重審査の結果、いずれも原案のとおり全会一致で可決・認定した。

平成27年度益城町一般会計補正予算については、AED購入および各施設での対応状況についての質問があり、その中で、AEDをリースで対応してはどうかとの意見があった。

また、基金に関して決算時の残高と現在の残高の差額についての質問があり、担当課長からは、出納閉鎖期間の5月31日現在の残高として計上し、あるとの説明を受けた。

益城町個人情報保護条例の一部を改正する条例の制定については、施工期日が条文により異なる

ために混乱が生じないかとの質問があり、例規集には未施行部分を区別して掲載するとの説明があった。

視察した益城町学校給食センターは、所長から現状の説明を受け、施設が手狭で老朽化しており、早急な建て替えの必要性を感じた。

また、飯野小学校空調設備設置工事は進捗率70パーセント、広安西小学校は30パーセントとの説明を受けた。工事においては、両校とも子どもたちの授業に配慮がなされていることを確認した。

住宅使用料長期滞納には明け渡し訴訟も

建設経済



町道認定箇所上辻線



潮井自然公園工事現場

建設常任委員会では、付託された7議案について、執行部から説明を受け、慎重審査の結果、原案のとおり全会一致で可決・認定した。

審査の主な内容は、区画整理事業に伴う道路整備進捗状況について、今後の整備計画を示していただきたいとの意見があった。

また、飯野地区の、ため池整備について中山間事業での補助事業として

できないかとの意見が出された。

この他、下水道整備地区内においての未加入状況については、加入促進の啓発をより積極的に行うよう要望があった。

なお、住宅使用料滞納については明け渡し訴訟等の別途対策に取り組むよう意見が出された。

下水道事業繰り越し分の進捗状況については、工法の見直しを行った一部を残し完了したとの報告を受けた。

視察した町道認定箇所上辻線は、道路幅員と延長について確認した。

また潮井自然公園工事現場では、右岸側が来年度完成予定との説明を受けた。今後の公園整備の内容について、サイフォン式噴水の整備を考えるとどうかとの意見があった。

また、公園竣工までに公園に至るまでのアクセス道路整備が必要との要望も出された。

マイナンバーカード交付はじまる

福祉



グループホーム津森倶楽部で入居状況の説明を受ける



すくすく保育園辻の城で保育状況を視察

福祉常任委員会では、付託された11議案について、関係課長から詳細な説明を受け、慎重審査の結果、原案のとおり可決・認定した。

マイナンバー制度について質疑があり、法律施行後の予定やマイナンバーカード交付開始に伴い、現在の住民基本台帳の発行・有効期限等について担当課長から説明を受けた。

基金繰入金残高9039万1千円の確認があり、担当課長から基金残

高ゼロと併せ増大する医療費の状況等について説明を受けた。

タクシー券の対象者や申請状況についての確認、及び子宮頸がん予防接種や乳がん健診の不用品等について質疑があり、担当課長から説明を受けた。

決算の関連として、今後の町国保財政の見通しと、国保の制度改正について質疑があり、担当課長から説明を受けた。

すくすく保育園辻の城においては、園長から施設環境、及び保育内容の状況等について説明を受け、少人数ならではの厚い保育がされていることを確認した。

グループホーム津森倶楽部においては、管理者から施設概要等について、詳細な説明を受けた。認知症対応型グループホームで18名が共同生活を送っておられた。ゆったりとした環境の中で生活されている様子が見えた。

＜9月議会での主な議案への賛否の状況＞

議案名	議長 稲田忠則	荒牧 昭博	渡辺 誠男	竹上 公也	中村 健二	石田 秀敏	坂田 英孝	寺本 英孝	坂本 貢	宮崎 金次	野田 祐士	吉村 建文	中川 公則	榮 正敏	松本 昭一	富田 徳弘	下田 利久雄	上村 幸輝	結果	
平成27年度一般会計補正予算（第3号）	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可
平成27年度国民健康保険特別会計補正予算（第2号）	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可
平成27年度後期高齢者医療特別会計補正予算（第2号）	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可
平成27年度介護保険特別会計補正予算（第2号）	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可
平成27年度公共下水道特別会計補正予算（第2号）	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可
平成27年度農業集落排水事業特別会計補正予算（第2号）	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可
平成27年度水道事業会計補正予算（第1号）	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可
平成26年度一般会計決算認定	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可
平成26年度国民健康保険特別会計決算認定	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可
平成26年度後期高齢者医療特別会計決算認定	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可
平成26年度介護保険特別会計決算認定	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可
平成26年度公共下水道特別会計決算認定	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可
平成26年度農業集落排水事業特別会計決算認定	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可
平成26年度水道事業会計資本剰余金の処分及び決算認定	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可
個人情報保護条例の一部改正	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可
手数料条例の一部改正	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可
町道の路線認定	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可
固定資産評価審査委員会委員の選任同意	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可
町議会会議規則の一部改正（議員提出）	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可

○：賛成 ×：反対 棄：棄権 欠：欠席 可：可決 否：否決 裁：議長裁決
 ※議長は賛否同数の場合を除き、通常の採決には加わりません。（欠（石田秀敏）＝身内不幸のため）

組合議案から
 こんごちは!!

御船地区
 衛生施設組合

平成27年度第2回御船地区衛生施設組合議会が開催され、平成26年度一般会計決算の審査を行い全会一致で認定することに決定した。
 歳入総額2億168万9488円。歳出総額1億8360万831円で実質収支額1808万657円となり、実質収支額のうち958万8657円は基金繰り入れとなっている。

益城・嘉島・西原環境衛生施設組合

平成27年第2回益城・嘉島・西原環境衛生施設組合議会定例会が8月21日に開催され、平成26年度一般会計決算および平成27年度補正予算（第1号）の2議案が提出された。
 決算状況では歳入総額5億6727万2877円、歳出総額4億9830万8292円。歳入総額と歳出総額との差引額6896万4585円となっている。
 補正予算（第1号）では2396万4000円を追加し、総額5億8109万円となった。提出された2議案いずれも全会一致で可決認定された。



益城クリーンセンター

設備更新計画に向け
 汚泥再処理センターを視察

御船地区衛生施設組合

組合議会は、9月28日から30日にかけて汚泥再処理センターを視察した。
 御船地区衛生施設組合のし尿処理施設は、稼働24年を経過し老朽化による設備の更新時を迎えている。
 数々の施策をほどこし耐用年数の延伸を図ってきたが、急激な施設の性能低下が見受けられるため、新たに資源化施設を設置した汚泥再処理センターの建設が必要となる。
 さらに熊本中央一般廃棄物処理施設整備促進協議会で協議されている、広域化を見据えた整備計画を検討する必要があるため、先行施設の視察を行った。
 最初に広島県三次市汚泥再処理センター「錦水園」を視察した。
 この施設は、平成22年4月に供用開始されており、従来のし尿処理施設炭化賦活処理施設により活性炭として資源化していた。
 29日は、東広島市の賀茂環境衛生センターを視察した。この施設は昭和60年10月に稼働し、脱水汚泥は同一建屋のごみ処理施設で混焼していた。また、老朽化によって平成32年度に更新時期を迎えるため、一般廃棄物処理施設整備基本構想を策定、2市1町からなる広島中央環境衛生組合を設立、「広島中央エコパーク構想」による快適に暮らせるまちの実現を基本理念に「高効率ごみ発電施設」と「汚泥再処理センター」を中核施設として、周辺地域の活性化や賑わいを創出するとして進められていた。



広島中央エコパーク構想

固定資産評価委員の
 選任に同意

固定資産評価委員
 氏名 村上 徹
 住所 益城町大字馬水
 457番地

益城町議会会議
 規則の一部改正

議会における欠席届の取り扱いに関して、社会情勢などを勘案し、出席の場合の欠席届け出について新たに規定を設けた。

第2条の2
 議員が出産のため出席できないときは、日数を定めて、あらかじめ議長に欠席届を提出することができる。

編集
 後記

今年も台風や竜巻豪雨など猛威をふるう自然災害が数多く発生して、自然の恐ろしさを改めて感じさせられました。8月25日に襲った台風15号により被災された方々に心からお見舞い申し上げます。

▼黄金色の田園風景の中でひとときわ鮮やかな彼岸花街道をみながらご存知ですか。津森から木山中学校に向かう木山川沿い一帯の美しい景観であり、安全な通学路、また、散歩やジョギングコースとして一役かっています。15年間をかけてコツコツとボランティアで整備してこられた地元の有志の皆さんに感謝と敬意を表したいと思います。

▼このたび、議会だよりの編集に関わる機会を与えて頂きましたので、議会が町民の皆様にとって、身近な存在になれるよう精一杯努めたいと思います。

文責 松本昭一

議会広報編集特別委員会

委員長	中村 健二
副委員長	坂田みはる
委員	榮 正敏
委員	松本 昭一
委員	下田利久雄
委員	上村 幸輝

議会往来!!

10月17日、阿蘇くまもと空港周辺四ヶ町村（益城町、菊陽町、西原村、大津町）議会議員研修会及び親善グラウンドゴルフ大会が益城町総合運動公園で開催されました。

研修では、井ノ口 寛熊本空港事務所長を講師に、「空港を活用したまちづくり」についての講演が行われ、空港の仕組みや機能についておおいに学ぶことができました。

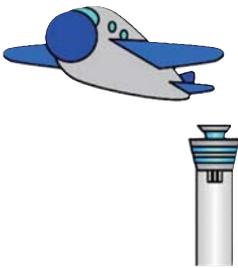
また、引き続き行われた親善グラウンドゴルフ大会では、和気あいあいの中にもあちらこちらで熱心なプレーが繰り広げられていました。



熊本空港のトリビアに興味深々



ホールインワンを狙って!!



益城町立第五保育所

益城平野に実りの秋が訪れ、黄金色に輝く稲穂や、農道を彩る彼岸花に目をやると、実に平穏な空気を感ずることが出来ます。

今回は福田地区にある第5保育所につきがいました。園庭で迎えてくれたのは、10月3日の運動会に向け練習に励む4歳児、5歳児さん達でした。鼓笛隊の演奏や隊列行進する姿に、園児達の一生懸命さがしっかりと伝わってきました。

第5保育所に20年ぶりに帰って来たとおっしゃる榎木野所長は、子ども達の生活態度を笑顔でこつおっしゃいました。「何事も静かに待てる、聞け



お兄ちゃん、お姉ちゃん がんばって

る、穏やかな子ども達だと。それは祖父母の存在による環境が落ち着きのある子ども達を育てて下さっている。先生方も子ども達のつばやき、声を大切にされているので、家庭でのことも含め保護者と先生方がパートナーの世界をつくる事ができている」と、なるほど確かに先生方の大きな声がほとんど聞こえてきません。静かに練習を見守る子ども達のお利口さんだこと。園庭中央に、緑の葉をつけた大木のメタセコイアが子ども達を見守っています。また、園庭のすぐ後ろには竹林が迫り、時には鹿、さる、



屋根のおかげで、砂遊びを満喫する子ども達

キジ、つさをみることもあるそうです。また目の前には田園を見渡せ、保育所はまさに自然の一部として溶け込んでいます。

さて今年の夏、砂場に屋根が取り付けられました。暑い日差しから子ども達は守られ、この日も、思い思いの砂遊びに夢中で、笑顔が絶えず、とても楽しんでいました。新しい福田タウンの活気ある若い世代や祖父母の方の存在と、自然環境がこれからも子ども達を守って下さることでしょう。

(取材 坂田みほる)

平成27年11月 益城町議会だより 清水

発行/益城町議会(議長 稲田忠則) 編集/議会広報編集特別委員会
〒861-2295 熊本県上益城郡益城町宮園702 TEL096-286-3351(直通) FAX096-286-4523
印刷/株式会社印刷 熊本支店



この議会だよりはエコマーク商品の再生紙をつかっています